

いしやまじょうあと 15 石山城跡

所在地：大飯郡おおい町石山

調査原因：範囲確認調査

調査期間：令和3年4月～令和4年3月

調査主体：おおい町教育委員会

調査面積：450 m²

時代：中世



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 石山城跡は、石山集落背後の標高 190mの山上に展開する山城です。主郭からは^{さぶり}佐分利川上・中流域一帯を一望でき、県道小浜綾部線と県道坂本高浜線が交差し、この地域を支配するうえで重要な場所に城が築かれています。本城を居城とし、佐分利一帯を治めていたのは若狭武田氏家臣である^{むとう}武藤氏でした。本調査は石山城跡の保存活用と将来的な整備の可能性を探ることを目的とし、令和3年度で3年目の調査となります。令和3年度は、令和2年度に引き続き遺跡の範囲確認と、^{しゅ}主郭の^{かく}確認調査を行いました。

主な遺構 主郭は南北長約 30m、東西幅最大 14.7mを測り、南側から約 15mのあたりで北東方向に少し屈曲しています。令和2年度において地表面下より多数の^{せき}礎石を検出、主郭全域に配置されていることが考えられたため、全容把握のため全面的な調査を実施しました。主郭は緩やかな傾斜の尾根を南側でL字状に削り、全域を水平に削り出して造成しており、北・東・西側はほぼ垂直に地山を削り切岸が造られています。

礎石は南側に集中して配置されており、北側は南側に比べ残存数は少ないものの、調査前から地表面上に扁平な石材がいくつか散乱していたことから、抜き取られたものと推測されます。礎石は（礎石直下を掘削していないため未確認ではあるが）地山の直上に置かれており、1間間隔で規則的に配置されている場所もあれば、並ばない礎石もみられます。現時点で建物の規模など明らかではありませんが、東西に6間から7間、南北に7間から8間の居館的な建物と推定され、主郭いっぱい礎石が配置

されていることから1棟以上の建物が建っていたものと推測されます。

主郭北東側に東西に比較的大きな石材を配置し、その中央に10～30cm前後の石材を敷き並べた石組を検出しました。この場所は南から続く通路状遺構が終わる主郭入口付近にあたり、^{こくち}虎口ではないかと考えられます。

主な遺物 主郭からは^{はじしつ}土師質皿（カワラケ）・^{せいじ}青磁碗・^{はくじ}白磁碗・^{そめつけ}染付碗などの土器片が出土しており、概ね16世紀中頃から後半に相当すると思われます。また、兜の一部である^{まえだて}鍬形状の前立も出土しています。

まとめ 主郭における調査成果は、戦時のための機能を持ちつつ、居住空間としての建物が山上に存在したことを示すものであり、恒常的に使用されていた可能性もあります。かつては山城における建物は大半が小規模な掘立柱建物とされていましたが、近年の発掘調査の成果で守護大名クラスの山城はもとより、石山城跡のような国衆クラスの山城でも礎石建物跡の存在が全国的に確認され、普遍的になりつつあります。令和4年度も調査を継続し、主郭以外の郭の調査や堀切などの調査を進める予定です。

(川嶋清人)



礎石



礎石



北側切岸



虎口状遺構